

所在地:	兵庫県丹波市氷上町石生250		
敷地面積:	20185㎡	延床面積:	12937㎡
設立:	1952年1月	従業員数:	119名
ISO14001取得:	2003年12月	ISO14001最新更新:	2010年8月
主要製品:	タイヤ・チューブ、ポンプ等サイクル用品、樹脂製品		
環境コミュニケーション:	10年度		
情報開示:	2件	工場見学:	15名
問合せ:	品質保証室	地域貢献活動:	1件
		TEL:	0795-82-6563



ごあいさつ

弊社は、パナソニック㈱の子会社で、自転車用タイヤ・チューブの専門メーカーとして昭和27年に設立されました。以来、通勤・通学・買い物等の生活必需品としてや、ロードレースやマウンテンバイク等のスポーツ用品として愛用されて参りました。自転車は近年の健康志向とも相まって、かつ環境にも優しい乗り物として脚光を浴びております。また、ゴム技術や樹脂技術を応用した家電用ゴム部品や小型電池のガスケット等を生産・供給しております。丹波の地は、風光明媚で弊社の周りは田園地帯となっており、常に環境に配慮したものづくりが必要です。今後も、「高分子化学で社会に貢献する」企業を目指し、挑戦していきたいと考えています。



環境責任者

高村 健夫

2010年度の環境重点テーマの取組み

目標	成果
1. 省エネルギーの推進	タイヤ・チューブの製造には電力とボイラー(重油)を使用します。原動費削減委員会を毎月開催し、全員活動で削減活動を行っております。
2. 廃棄物削減	廃棄物の中でも、工程ロス発生に伴うものが大部分を占めております。高付加価値商品の少量多品種化への対応が大きな課題です。
3. 排水・排気等の日常管理の徹底	田園地帯に囲まれた弊社では、工場から出る排水や排気などの管理が重要となっております。日常点検を基本に推進しております。

製品・環境配慮ポイントの紹介



リブモS (RiBMoS)

製品の環境配慮ポイント

自転車は、排気ガスを出さない環境にやさしい乗り物であり、また健康的な乗り物でもあります。このリブモは、“Ride Bicycle More!”(もっと自転車に乗って親しもう!)のコンセプトのもとにその頭文字を取って名付けました。通勤・通学などの日常の足やツーリングなどのハードな使用にも耐える耐摩耗・耐パンク性と軽快・安全走行のための低転がり抵抗・高グリップを実現しました。

カラートレッドの新シリーズも好評を博しています。



トップマウント式大型冷蔵庫 防振ゴム

製品の環境配慮ポイント

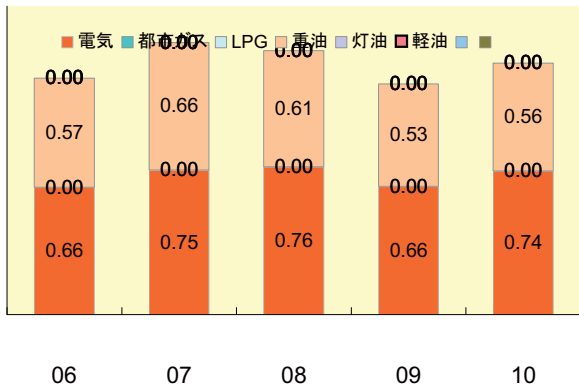
「設計サイズは小さめ、庫内は余裕の大きめ、トップユニット冷蔵庫」
パナソニック製大型冷蔵庫の省スペース化と省エネルギーの実現に大きく寄与しています。

製品情報→ <http://panasonic.co.jp/ppt/company/>

環境パフォーマンスデータ グラフ表示年 010: 2010年4月1日～2011年3月31日

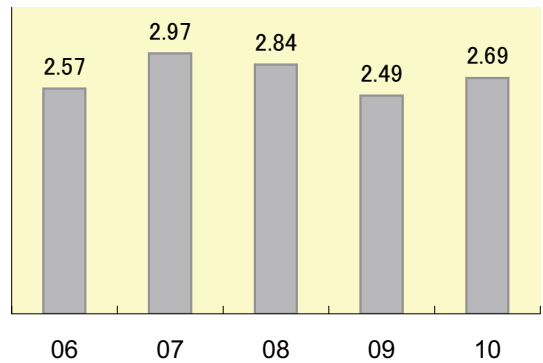
エネルギー使用量

単位: 千kl



CO2排出量

単位: 千t



自然エネルギー使用量 10年度 (年度)

0.00 千kW/h

(年度)

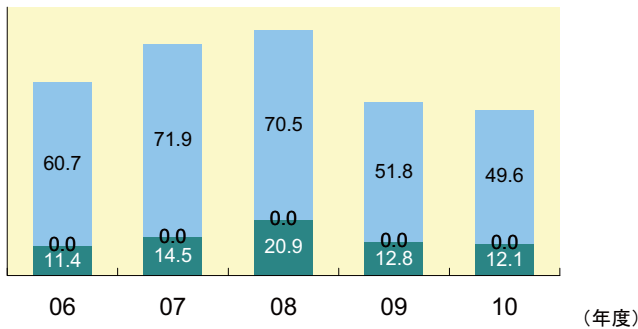
算出基準について

電機事業連合会「電気事業における環境行動計画」(2008年9月)に記載されている年度ごとの「使用端CO2排出原単位」を使用して計算。但し、2006年度以降は0.410kgCO2/kWhを固定して使用。

水の使用量

単位: 千m³

■ 上水道 ■ 工業用水 ■ 河川・湖水 ■ 地下水



循環的使用量 10年度

0.00 m³

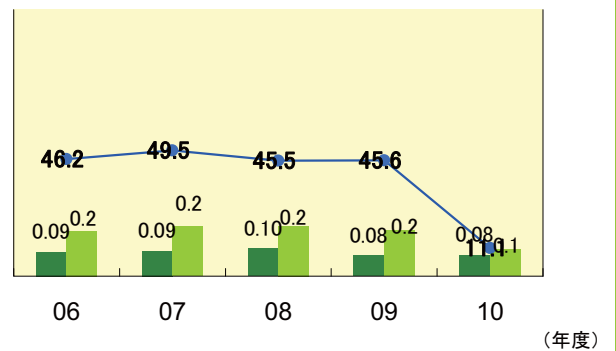
雨水使用量 10年度

0.00 m³

産業廃棄物・有価発生物

単位: 千t、%

■ 最終処分量 ■ 発生量 ● リサイクル率

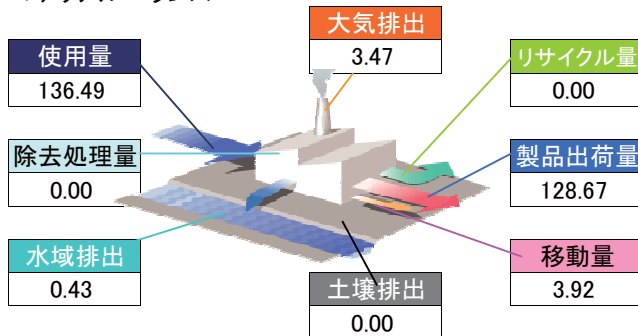


化学物質

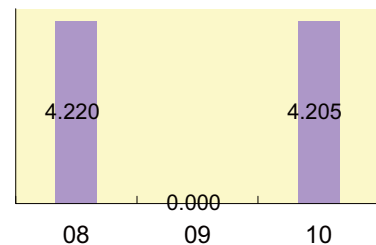
単位: t

マテリアルバランス

10年度



重点削減物質 排出・移動量



環境パフォーマンスデータの特記事項

パナソニックグループの工場化学物質管理について

http://panasonic.co.jp/eco/factory/chemical_substance/

環境法令等の順法状況 10年度

<大気汚染物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
SOx	Nm ³ /h	炉筒煙管ボイラー	17.50	1.75	0.77	0.94	2回/年
NOx	ppm	炉筒煙管ボイラー	180.00	180.00	73.00	80.00	2回/年
ばいじん	g/Nm ³	炉筒煙管ボイラー	0.30	0.30	0.01	0.01	2回/年

<水質汚濁物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	排水1	160.00	160.00	7.00	7.00	1回/年
		排水2	160.00	160.00	1.00	1.00	1回/年
		排水3	160.00	160.00	2.00	2.00	1回/年
BOD	mg/l	排水1	160.00	160.00	1.50	1.50	1回/年
		排水2	160.00	160.00	1.50	1.50	1回/年
		排水3	160.00	160.00	1.50	1.50	1回/年
窒素	mg/l	排水1	120.00	120.00	2.00	2.00	1回/年
		排水2	120.00	120.00	0.50	0.50	1回/年
		排水3	120.00	120.00	0.50	0.50	1回/年
リン	mg/l	排水1	16.00	16.00	0.10	0.10	1回/年
		排水2	16.00	16.00	0.10	0.10	1回/年
		排水3	16.00	16.00	0.10	0.10	1回/年

<騒音・振動>

	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 樹脂工場西側	65.00	65.00	64.00	64.00	1回/年
		夜					
振動	dB	昼 コンプレッサー室南側	65.00	65.00	38.00	38.00	1回/年
		夜					

法令規制値: 法または条例および協定の規制する値

N/A: 法令規制対象外の項目

法令規制値超過について

特に報告すべきことはありません

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
指導、指摘事項はございません	

環境方針

基本理念

パナソニックポリテクノロジー株式会社は、地球環境の保全が人類共通の重要課題の一つであることを認識し、すべての事業活動、製品及びサービスを通じて環境への影響に考慮して行動する。

方針

自転車用タイヤ・チューブ並びに工業用ゴム・樹脂部品の製造販売を中心とする事業活動、製品及びサービスを通じ以下の方針に基づいて、環境管理活動を行い、地域および地球環境との調和をめざす。

- (1)すべての事業活動、製品及びサービスを通じて環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的、目標を定め、全社員が一丸となって環境マネジメントシステム、環境活動を実行し、継続的な改善を推進し環境汚染の予防に取り組む。
- (2)法令、県の環境に関連した条例、協定同意するその他の要求事項を遵守する。
- (3)当社が行う事業活動が環境に与える影響の中で、次の項目を重要事項として取り組む。
 - ①廃棄物の管理と削減を推進する。
 - ②エネルギー消費の削減とCO2発生の抑制に努める。
 - ③環境保全を推進する。
- (4)環境教育、ポスターなどで、全社員への環境方針の理解と環境に関する意識向上を図る。

2009年 4月 1日

パナソニックポリテクノロジー株式会社
社長 後藤 繁紀

環境負荷削減の取り組み事例



ボイラーバーナーの更新

バーナー更新により燃焼効率が向上し、重油消費量の削減とばい塵値の低減が図れました。



高圧設備稼働管理による節電

各工程にある高圧設備稼働時間の重複稼働を見直し、割り振り稼働することによりデマンドカットの低減を行っております。

環境コミュニケーション事例



JR石生駅側の道路清掃

当社工場の石生駅側に歩道があり、不定期ではありますが草刈と清掃作業を実施しています。



地元中学生と高校生の総合学習支援

総合学習の一環として、毎年工場に地元の中学生が「トライやるウィーク」高校生が「インターンシップ」活動で 来訪されます。タイヤ・チューブ及び樹脂パッキンの製造工程でものづくり体験をしてもらうとともに環境取組についても学習していただいております。

緊急事態への準備と対応

考え方と訓練計画

緊急事態を火災とオイル流出事故と想定して、年一回のペースで実施。

- 1)火災は、職場より出火したことを想定して、①消防署への通報訓練、②工場への通報、③避難訓練、④消火器と放水による消火訓練を全社員対象に実施しています。
- 2)オイル流出の対応訓練は、各職場責任者、生産技術課メンバーなどを対象に、オイルフェンス・中和剤・オイルマット等の保管場所・使用方法などを中心に訓練を実施しています。



オイル漏れ訓練

当社では、ボイラー用の重油やゴム製造用プロセスオイルなどを使用しています。防災訓練と合わせて防災グッズの点検や使用方法の確認などを実施しています。